WASON
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

明治二十年十二月三日刊行

Dec. 188
no 8

每土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送稅

第八十七號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

附録　名家古書一葉

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 87, December 3rd, 1887.

第八十七號

EDITORIAL:—Ladies Sanitary Association; Women and Short-Hand.

LEADING ARTICLES:—Secret of Well Dressing and Use of Cosmetic: No II. by Rev. Kimura; Destruction of Human Body by Drinking (Concluded) by S. Tsuda; A View on the Moral Education in the Grammar School: No. III.—by K. Kimura.

MISCELLANIES:—Japanese Drawing: No. III.; Something to Do, Mrs. Craik.

BIOGRAPHIES:—Prascovia Lopouloff: No. III.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

●社説　婦人衛生會○女子と速記術

●論説　金屋の秘訣(木村熊二)○酒の害(津田仙述)○德育に付ての一案(加藤弘之述)

●叢話　和書講義及附評(八木兼辰及評者)●何事をか爲せ(クレーク夫人)

●佳傳　サイベリアの女傑(三)

●寄書　女子の高等學及女醫(松井康)

●新報　十件

●珊瑚の珠　(第四十四回)

○マコウレー氏は嘗てパーレー姫ベーコン姫等の事を記するとき一言して曰く吾輩昔時の婦人の才學を賞賛するとき斯程の婦人が當今に存するとなしとして之を言ふにあらず實は當時女學の地位甚だ低く一般に如此き女流の甚だ尠かりしとを思ふゆへあり

○アダムス曰く人誰れかテンニソンを以てミルトン、スペンサーに優れりとしミルを以てベーコンよりも大哲學者なりとしザッカレーを以てフハイルデングよりも大小説家なりと云ふものあらんや男子に就ては如此し然るに古來女學者の智識は只だ進歩するのみ敢て止まるとなし古の女秀才よりも今の女流の優るあるを見るのみ

○マルテン曰く人もし一國の政治及び道德上の地歩何如んを知らんとせば須らく先づ其國婦人の有せる地位何如んを問ふべし

○ナポレヲンボナパート曰く人戰に臨んで勝敗の數を考ふるときは先づ敵國の女子躰力何如んと問ふべし母にして若し衰弱せるものあらんか其子必らず弱れし兵の强からざると察知するを得べし　(大意抄出)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第八十七號
明治二十年十二月三日

社説

○婦人衛生會

去月廿三日東京麹町小學校に於て開かれたる婦人衛生會は加藤弘之坪井二郎の兩氏を請ふて衛生上の講談を催うし兼ねて役員撰擧の議事を開ひて副會頭加藤夫人以下數名の委員を定めたり元來此會は既に數月前に於て創立ありたるものと承れれども是迄は差したる公けの集會をも爲さず尙且つ會の役員をも定めざりしとあれば其運動の程も別段に注意すべき所あらざりしに萌芽俄然として發達し今まは中々の盛況と爲つて東京婦人事業の最大なるものゝ中ち最早其一つとし算へ入るゝに論なきの有樣と爲れり故に此際同會の爲に一言し且別に少さか思ふ所ろを述ぶるの至當なるを信ず。

凡ろ預防の一斤は治療の百斤に相當する者とあれば醫術療法の甚だ隆盛と相成らんよりは寧しろ預じめ疾病の起り來る根元を防ぐ事ばら衛生豫防の事に注意するは甚だ利益あるとあり而して婦人衛生會は先づ此の豫防衛生の道を伸張せんとを目的と爲せり之れ賀すべきの一つなり。次に從來日本私立衛生會なるものありて夙に衛生上の理術を伸張せんとを盡力せらるゝ所ろ之に加入せられたる婦人方の數甚だ僅かにして尙ほ女流が同會内に於て盡力せらるゝの度も左程に著しからず而かも同會の力を盡さるゝ所ろは或は寧ろ高尙遠大の事に走りて家内實地の些々たる事に及ばず天下を掃除して室内を不潔にするの憾往々にして之れ有りしと傳聞せり而して婦人衛生會は先づ此兩弊を除かんとに熱心し女流躬から其事に盡力し且つ成るべく家内衛生卑近の事に着手せられんとする由に承れるこれ賀すべきの二あり。

抑も家内衛生の事は婦人方の專ら擔當して其取扱方を心得らるべき所の者あり例するに衣服洗濯の事より食物調理の方法に至る迄で及び窓戶の開閉吹き掃除の心得より看病育兒の如き大切なる心得方に至る迄で一つとして婦人の注意を必要とせざるものなし若も婦人方にして一家内に此等の大切なる衛生方に心掛らるゝとなくんば天下の掃除何如ほどに行屆き豫防驅除の石炭酸率土の濱迄に流れ渡らんとも効驗決してあるまじきもの也故に一家の取締方を擔當すべき婦人方に家内衛生の智識の欠く可らざるとを承知するいよ／＼深きと共に此等の智識を押し廣ろめて女流惣躰に婦人衛生の責任を盡さし

めんとを主旨とする此會の如きもの丶必要を感ずると又いよ〳〵切ありと云ふべし」然るに吾人が同會の隆盛を賀するは啻に上述する所の二箇條に止まらず更らに之が爲めに女醫の業の大に進歩せんとを推察して遙かに先づ大に慶喜するところのものある也。

元來衞生の學は治療の術等ぼ完備したるの后に起り來るものなり然るに我國の女流社會に於ては女醫と稱すべきもの日本全國中僅々二三人の上に登らずして衞生の事に注意するもの既に一の大會を組織するに至らんとは少しく尋常の例しに相違する所あるが如くあれども是は外部の刺擊に迫まられて急かに發達したる一現象として解釋するの外なきものなり、然れども之が爲めに延いて女醫の養成に少からざる助けのあらんと必然なるが故に吾人平素の望む所に照らして又更らに此一事の爲に慶賀せざるを得ず。現に今ま我國に名醫博士の多からざるにあらずとは云へ凡そ特に婦人病と稱する種々の疾に對しては成るべく女醫の治療を請はざる可らざるの理あり之は女にあらざれば女の秘密を知り盡し難き事及び同性にあらざれば自然遠慮掛念等の故障に由つて明白に樣躰を述べがたき事等の事情ある外に凡そ婦人病を男子の手によつて治療せられんとは道徳上尤も見るに忍びざる者あるが如し、故に吾人は女醫の養成を切望し思の玆に至る毎に數度び慨然として慷歎する折柄今ま婦人衞生會なるもの丶將に大に興らんとするの光を望んで私かに東天に微光を見るの喜びありと云爾。

○女子と速記術

速記術の便利有益なるとは今更らに申す迄もなし而して女子が特に能く此の術に適する事及び女子職業の一つとして當今此術を修むるとの甚だ利益多き事は之を幾度申すとも尙ほ足らざるが如く思はる而して英國倫敦に万國速記術の大會あり其會當日の景況我國に傳はり來るの今日に當ては玆に更に一度び女流の注意を喚起すべき必要ありと信ず。

日本人は元來指頭の藝能に達し其箸を握りて自由に大小の食物を取上ぐる所、軟々たる羊毛を揮つて龍躍り虎飛ぶの大字を認むる所、細糸一貫鐵針を弄して縱横自在に衣服を仕立つる所、何れも西洋人が喫驚して日本の一珍事と爲すところの者なり而して日本人中指の働らきの尤も巧みなるものは即はち女流あるが故に日本婦女子の速記術に適當するは殆んど抻與第一ありと云ふも敢て過言にあらざるべしと思はる故に假令ひ他の職業に於ては女子或は男子に劣るとあらんとするも

此一事に就ては確かに婦人の勝と相成るべく考へらるゝに付て當今我が姉妹等の志あらんものが速かに此職に就くの決心あらんことを切望せざるを得ず、殊には婦人の會合追々に勃興するの今日に當り偶ま男子の傍聽を許さゞるの集會あらんときも止むを得ずして男子の速記者を招かざるを得ざるの不都合を見るのみか婦人會に婦人の書記を備ふるの便利を得る能はざるは實に非常の遺憾なりと云ふべし。故に今若し女子にして速記術に練達するものあらば其需要必らず多かるべく世上之が爲に便利を感ずるものも亦甚だ多かるべき也。

左れば九月廿六日倫敦ゼルミーン街の地質博物館に於て開きたる萬國速記術の大會に於て會長ロスベリー君の演述中にも亦た曰へることあり云く

當今男女職業上の競爭甚だ激烈なるが中に確かに婦人方の優等と相成らるべく見ゆるは即はち此の速記術ならん而して速記術を學ぶは啻に之を以て一個の職業を爲すべき婦人方にのみ切要なるにあらず今ま數多の人々は多くの秘書官を雇ふと雖ども若し之に代ゆるに速記術に達したる細君一人あらば其の助けを得ることの多きことは言語に盡しがたきものあるべし云々（大意を抄譯す）

●論說

○金屋の秘訣（第二）

木村熊二

美術を詳に說かんには先第一に人の働情と情好を精細に論せすんばあるべからずされど餘り理論に亘りて看客を倦しめんことを恐れはそを脩身學の記者に讓りおきて直に美術の事に及ばんと思ふなり勿論美術の事はおもに繪畫肖像音樂詩歌などによりて說明するは通常の法則なれど余は婦人の裝飾上に於て美術の本原とする美麗といへる事を說明せんと欲するなり美麗とはおもに視力を歷て人の意思に愉快なる感動を引起さしむるものをいふなり今糸竹の淸らかなる調を耳に聞て之を美といひ或は緞子海獺皮の軟滑なるを撫てゝ其の手に觸るるさまを美なりといふも矢張意に愜ふ狀を顯さん爲に暫時視力の美といふ辭をかりて之を評せしなり總て外部より人の意思に美惡の感を起さしむるに視力を歷すして來るものはあらざるなり故に視力を鍛錬せすは造化の美室に入りながら瞽者衣裳の色を說くに異らざるなり

凡そ物躰には單一の美あり雜駁の美あり夜半の頃霜に磨ける月影の紙窓に照り亘りて畫き出せる梅の影を見れは幹は屈曲して龍の如く枝は横斜にして疏影あり斯の如く一個々々に其

の美を呈する時にさよ嵐の時ゝ之を搖動する姿ハ更に一層の美を添る事を得へし夫ハ形と運動と二美合併して生する所のものあり川霧のふもとをこめて立ぬる頃空に印する秋の山の寸碧ハ形と色と合併して人の意思に美麗の感を與ふるものあり春の柳の淺みどり糸よりかくるハ長さと色と合併せしものあり春の末つ方飛鳥山より四面の景色をなかむれハ蓮花梅花草なとの田毎に咲亂れたるハ長さと廣さと色と合併して美麗を造成せるものありこの外に相伴の美麗といふ事あり假令樂燒の茶碗ハ茶坐敷の風雅と茶人の好奇に伴ひて美麗を感せしむるものなり始めより之を權助の茶漬茶碗と爲したらんにハ誰か之を賞美するものあらんや秋の野みちの薄に殘る露の玉もかしくと讃めハ意思に非常なる美麗を感せしむるものあり又如何に美麗の物躰にても相伴して大に意思に返對の感覺を生する事あり苔むす庭に數竿の竹あるを見れハ欝蒼として健康なる狀を顯して情緒に十分の快を與ふといへとも美人の顏色蒼青を帶ひたるハ人をして悚然として非常なる不愉快を感せしむるものあり夫ハ見る人の心に憂慮の切なるか又疾病にて惱まさるゝ狀を想像せしむれハなり支那人の黄色を愛して之を貴重し又昆崙奴の黒色を愛して顏色の最も黒き婦人を美人と思想し亞米利加印度の婦人ハ丹を用て顏を塗り西洋婦人の淡紅と純白を愛するハ習慣の所致といへとも自然相伴の美よりして之を愛するものといわさるを得す東洋人種の皮膚ハ黄色を帶昆崙奴ハ常に黒く印度人ハ赤く西洋人ハ白皙なれハ自己の色こそ最も美麗なるものと思ひつるなり近く吾か邦にてもかゝる例ありたり邦人の皮膚ハ黄色に白を加へたるか淺黄色に黒色を加たるもの常に多かりし中に偶然白皙種の人其の間に出る事あれハ白皙として之を卑みたり夫ハ白皙の卑きにもあらす汚らわしきにもあらねと邦人にハ不適當なる肉色なれハこそ之を擯斥せるもの也其をして西洋に在らしめハ誰か之を怪むものあらんや婦人の裝飾を作し紅粉を試むる時先この三種の美麗を理解せずんハある可らす夫ハ各の趣味を殊にするを以て單一の美に裝飾するとあり雜駁の美に粧ふあり或ハ之に相伴の美を添て大に容姿に美を顯すとあれハなり

單一の美を了解せんにハ色の美麗を知事必用なり色ハ七色の外に混合して成れるもの甚多し又ハ色ハ著しく人に美麗の感を與るものゝ假令白と赤とハ心に活潑なる感を起さしむる者あれハ卯の花の垣根の雪白蓮の露に浥ひたるか海棠の雨を帶て醉るか如く美人蕉の花の咲始めたるを見れハ意思に快活を

覺へしむるあり又夏山の木々の梢の深みと住の江の岸の松原を見渡せは其心地よきを覺ゆるは綠色の視力に最上の愉快を與ふるものあれはなり淡紅色と淺黄色とは柔和なる性質のものにして野邊に茂れる若草のねよけに見ゆるも立田姫の染なす一しほの紅葉を見れは活潑にして柔和なる感動を生せしむるか如し五月雨のいつしか晴て山杜宇の聲聞も稀なる頃婦人か白地の衣裳或は淺黄色の洋服を着する姿は美麗にして活潑に見ゆるあり又籬菊は霜に傲り風霰は窓を打つ頃紺の一樂織か茶の万筋のじみなる衣裳に薄鼠の縮緬の羽織なとを着したるは更に美しきあり故に黄色にても黒色にても薄鼠色にても用ひ方によりて甚た見る可き所あるあり

色の雜駁は色の單一なるよりは更に一段の美を顯す事を得たりされと餘り雜駁に過る時は視力を分つに煩しくして却て返對の感を引起さんとす宇宙間の物其色の雜駁にして美麗なるもの多しといへとも要するに視力に頻煩を與へす其色の集合法宜に適ふものあり白き山茶花の花心に黄あり黄菊の花心に青あり又深紅色の桃花の心に白あるか如し黄金色に紅白を併せ赤紫白黄と混し白青綠黒と合せは可なり雜駁なれとも甚美麗に見ゆるものあり假令白き數寄屋の衣の下に緋縮緬の長襦袢を着し黒き縮緬の衣裳に白き裳と襟なとは二色合併せる所より大に見へきわり色の單一なるを好しとして白き衣裳のみを着したらんには雪ふる野への白鷺の如く大に風致を減するあり又黒色をよしとして黒き衣裳に黒き羽織を着し黒き頭巾に黒塗りの履をはく時は暗の夜に熊坂長範の顯れたる如くにて絶て風致のなきものなり衣裳の色は單一ならす雜駁ならす適當の色を撰んて裝飾せは見苦き憂はなかるまし當時束髮の流行せる世の中なれは婦人の裝飾は追次に花美を競の風あり夫は勉て西洋婦人を擬せんとして苦心焦慮するもの丶如し甚しきに至りては面と首に白粉を塗抹し手まて白くせる人あり夫は餘り技術を以て美を裝せんとして却て自然の美を損減する者なり恰も佛朗西婦人の其顏臉を紅に染て自然天資より美麗なりと思か如し東洋の婦人は其の皮膚は淺黄色か淺黒色を帶たれは殊に注意すへきは粧飾なり假令年齡二八より廿一二におよひたる婦人は健康にして顏臉の常に深紅なるを見されは粉黛を試むる時に濃抹するも左程見苦しきものにあらす廿四五より七八の齡に達したる婦人は多分は顏臉の深紅は漸く淡紅に赴かんとする傾きあり此の時は可成丈淡粧を凝し唇に少しの紅脂を染なは顏色に健康なる狀を顯すへし虢國夫人の

脂粉の顔色を汚すを嫌ひて淡く蛾眉を拂て至尊に朝するとは此の年齢あるべし四十歳より眉上に秋波紋を成し瞼上の桃紅纔に其の痕を殘すのみ此の際は勉て淡粧をよしとす或は溶解白粉を用ゆる程にて足りぬへし總て顔色は健康に見ゆるこそ美しけれ白粉を塗抹し自然の美麗を損したるは其見苦しきものなり當時三四十の校書か其の粧飾人をして嫌しき感を生せしむるは三十振袖四十嶋田顔はいつても厚化粧といふ規則に原き技術上より一時の美を粧はんとせるものあれは一宵の春夢覺め來し時は浦島の子にわらねとも開て悔しき明鏡の薹と悲歎の涙にくるゝとかや（未完）

○酒の害（其二）

津田仙演述　佃節雄筆記

是れより經濟の點に就て聊か酒の害を述べましせう方今日本に於てどの位の酒を飲むかと云ふに大概四百萬石ぐらゐの酒を造ります東京府中の人を二年半徒手して食はしむべき程です加ふるに外國より輸入して參る所の酒も莫大のもので御座ります初めは外國人のみの需用でわつたから税を課するにも足りませんでしたが年々増加して數十万圓とあり今日は數百萬圓の輸入で御座ります此勢では必ず將來數千萬圓の洋酒を輸入すると疑ひあきことで御座ます（喝采）何故かく増したかと云ふに洋酒は飲んでも頭痛がしない口にも適し甚だ巧みに拵へてわりますから我邦の酒を捨てゝ洋酒を用ゐるものが多くなつたので御座りませう然らば如何にして之を防ぐかと云ふに政府も未だこれに重税を課して之を防ぐ十分の力はわりません又條約改正が首尾よく成りて歐米諸國の如く他國より輸入する酒烟草に重税を課するも人民各自に之を嗜んで之を捨てざる時は其効能は御座りません左れば一國の經濟を慮るの人は各人に洋酒を擯斥することを奬めて戴かなければなりません新聞の廣告などを見ますと御藥葡萄酒などゝ書き立てゝ何の病に功能がある杯と申しますが酒と云ふ以上はアルコール質を免れんもので如何なる酒でも藥になると云ふとは御座りません（ノー〱ヒヤ〱）米國に於ては此酒を擯斥する者が多くなり遂に輿論とあつて五縣だけは全く酒を禁ずる事になりました夫れ故酒を買ふは毒を買ふと同じことです一々酒を買ふの理由を書て戸長役場の認可を受けなければならぬとになりました殊に此五縣の一なるメーンと云へる國は物産も尠し甚だ貧乏國でわりましたが禁酒令斷行以來は益す富を加へて今は日の出の勢となつ

て居ります(ヒヤく須らく則るべし)併し未た米國則ち合衆國に於て酒の爲めに費す所の金額は七億五千九百萬弗で御座いますが合衆國中の職工に拂ひ出す賃銀は七億七千五百五十八万四千弗で御座りますシテ見れば亞米利加人中の職工の手間と酒の代とは互に相匹敵して格別に差はありません(喝采)支那人は生糸と茶の物産を以て數千萬圓の利を得るも好んで鴉片を喫し自躰を弱らせ財を盡すをも知らず我々は岡目で視れば甚だ笑ふべきとでありますが我國人の酒を好んで身躰を害するを悟らぬを禁酒國人が見たならば定めて笑ふで御座りましよう(喝采)

英國に於て近來盛なるは鐵道に若くものはありませんが若し英國人が悉く酒を廢するとすれば四年を期して英國全躰の鐵道を買受くるとが出來ると申しますが英國にて數千萬圓の金を費すは何の役になつたかと尋ねて見ますと一般人民の墮落と不健康を買うに過ぎません(喝采)政府に納むる租税よりも多く實に驚くべきほどです若し日本人が一年酒を用ゐずして此金を鐵道に用ゐましたならば根室から九州の果てまでも拵らへることが出來ます次年には農業牧畜は勿論工業を盛にし蒸氣を備へ製造所を興し海陸軍を十分に備へることも出來ましよう(大喝采)

かゝる考を一般人民に與ふるには如何なる方法に由りましたらば宜しいか現に亞米利加の矯風會は五十年前に始めて起り婦人矯風會は二十年前に起り始めは僅かの會員ありしが遂に漸々會員を增加し勢力を振興し請願に建白に痛たく其力を盡したるの決果は遂に五縣をして禁酒令を行わしむるに至りました今では彼の婦人矯風會は全地球に委員を派出し先年レビット夫人の我國にも來遊ありたるは則ち此の會の始まりで御座ります左れば婦人矯風會なるものは全世界に勢力あるものと申しても宜しいと存じます斯く婦人が社會に勢力のあると云ふは元來婦人は風俗改良等には男子に勝さりたる特性を有つて居る故で御座ります近頃出版になりました西洋女範と云ふものを一部貰ひましたから讀でみましたれば婦人の社會に勢力あることが書て在りますから今少し參考の爲め朗讀致します

婦女が社會に對する勢力は大なり婦女は其交際社會の風俗習慣及び話說の躰裁を定むることあり男子はその目前に於て言語を謹しみその嗜癖好惡を知ればその意に逆はずこの場合に於ては一婦人の力を以て其身一人のみならず婦女一

般の尊重を自由にするものにして交際社會に影響を及ほすの大なる自から之を知らざることあり曾て婦女が同盟して戰を止めなば能く此の好目的を達することを得べしとの說をなす者あり婦人が世上各般の公議輿論に關して大勢力を有するや疑なし婦女は政治會社にも亦大勢力を有し選擧の時に投票の數を左右し國會議員を撰擧するとあり………

實に其勢力は大なるものではありませんか凡そ强きものが强きものに合ゐますと互に抗抵し軋轢を生ずるのみで御座いますが弱きものが强きものを導けば何の樣な剛者にても氣の折れるものですそれゆへ婦人の勢力はかくまで强くなるものと思もはれます就て私が實見した話しが御座いますが明治十二年の頃米國の前大頭領ぜチラル、グランドが我國に來たられて延遼館へ滯在されました御承知の通りグランドと云ふ人は武官で志剛く加之最も力ある政治家ですが或日に宣敎師が謁見を請われました其日は月曜日で御座いましたが今日爰に御出での此會長矢島姉と共に働かれ居る櫻井女學校の敎師ミセス、ツルー氏がグランドに會ひましたがグランドの居間に參つてグランド君あなたは昨日陸軍の招待を請けまして日曜日に射的を見に行かれましたが日本では名望あるあなた故あなたの爲すとは日本一般の注目する所となつて居ります亞米利加ではあなたを日曜に招待するものはありますまい好し招待を受けても其招きに應ずる氣遣ひはありますまい日本だから日曜日にも招待したのですが日本人をして日曜日に安息すべしと敎ゆる人の爲には甚だ迷惑の事なれと申しましたらグランド氏は眞赤になつて誠に氣が附かなんだイヤ氣が付きませんでした(喝采)此後は日曜日に何處から招待を受けても往きますまいと云ふ挨拶を聞て夫人はツー御承知なれば誠に難有ひ左樣ならと云て歸られたと申しますが如此きとは男子には却て困難なるとなるが婦人には容易に爲し得る業と信じます(喝采)

米國に於て今を去ること十二年前即はち千八百七十六年前大頭領辭職してヘース氏大頭領の職に就きたる所此夫人は矯風會員で御座ります然して米國の例にてステートジンチルと申して各國の公使國會議員をはじめ多くの人を饗應するのですが今此夫人は矯風會員で禁酒徒で御座りますからこれをヘース君に相談致しますとヘース君の申さるゝには饗應の事萬端卿に任かせるから宜しき樣に取斗らへとの挨拶ですから夫人は如何にしようと心配しましたが遂に其意を決して一切酒を

用ゐぬと定めました併し例の無きとを致すのですから賓客を招いても大きに心配しましたが其席に招かれました人々は皆夫人が愛國心の深きに感じ又鋭意酒を斥くるの厚きを嘉みし酒を以て御馳走したよりも一倍の賞讃を博しヘーズ君の人望を増したと申すことで御座ります

餘まり長くありますが今一言演べて此演説を終はらうと思ひます實に酒は我國を富ますの產物でなく一家の幸いとあることとても無いと云ふは諸君は既に御承知にありましたらうが私の微弱なる演説を以て人を感動せしむるとは出來ませんが左ればとて毎年々々幾百万圓の金を費やして墮落と不健康とを買ひ甘んじらるゝの諸君ではありますまい今私は切に我國矯風會會員に望みますどうぞ會員の數を増し益々此事に盡力せられんことを望みます又未だ會員とならざる婦人方は願はくは速に會員となつて共に與に力を戮せられんことを願ひます嗚呼我三千八百萬の人は將さに此毒水に溺れんとする有樣で御座ります貴き婦人あなた方の愛らしき唇は應に此の大敵を防ぐに足るべきの力あるものですあなた方の軟しき腕は毒水に溺れんとする幾多の人を救ひあぐる力あるもので御座ります(喝采)米國の婦人は啻に自國に功を立てたるのみあらず遠く大洋を航して萬國の民をも救ひ上げんと計畫せらるゝもので御座ります語に曰く見義不為無勇也とあなた方も勇氣を振われ各郡各村に及ぼして天與の幸福を與ふるとを偏へに希望致します(大喝采)

ソコデ今日の演説筆記幷に草稿は農業雜誌にも來月掲げますし巖本君からも再び女學雜誌に掲載するとのことで御座りますから表や何か能くおわかりにならん方があらば何卒此二ッの雜誌について御覽下さることを願ひます(完)

松川顯三郎　筆記

○德育に付ての一案(第三)

加藤弘之　演述

世の中には目明き千人盲目千人と云ふとがある都合二千人の中目明きと盲目が千人つゝあるといふのでありますが私は目明きと盲目かとても半分つゝあらうとは思はない二千人の中で千九百九十七、八人迄は盲目で其跡の二、三人が目明きでそれも目明きにあれぬ位であるそれほど世の中には盲目が多いそれは本統の盲目ではない理學哲學が盲目なのだ眞に學問上から云へば千九百九十七、八人は皆盲目であるそれだけ多い盲目の世の中であれば盲目を治めて行く道具といふものがなければならぬ二、三人の目明を治る道具よりは千九百九十七

八人迄ある盲目を治めるのが必要であるそれ故に私ハ千九百九十七、八人の盲目の爲めに必要であるから其方の道理から云へバ私ハ宗教といふものが大變好きになる獨逸の哲學者「ショペンハウエル」といふ人の云た言に「宗教ハ螢の様なもので暗い所でなければ光ることが出來ない」と申しましたが私が考へるに今申した通りに此世の中ハ二千人の中千九百九十七、八人迄ハ盲目であるとなれバ丸で暗の世界である暗の世界なれバ螢が光らなけれバありません「アウゴストコント」といふ人の言に「此世の中の進むハ宗教哲學世界から想像哲學の世界それから進んで實驗哲學になる」といふことを申しましたが私が考へでハ宗教の世界を離れてしまふことハ容易に出來ない一般の人民が宗教の世界に居るものであると考へるそういふ様に考へれハ即ち宗教といふものハ理學や哲學の目から見れバ誠に空理を説いて取るに足らぬ齒牙に懸るに足らぬといふ様なものであるけれども其千九百九十七、八人の盲目の爲めにハ寔に必要なものゝれだから今日一般の徳育といふものハどうしても宗教でなけれバ役に立たぬ有り難いとか怖ろしいとかいふ神様とか佛様とか上帝とかいふ本尊様があつてそれを手便りにして薫陶して行く教へでなけれバ一般の愚昧な世界にハ利目がない理學哲學ハ高尚なものだけれども是れハ學者社會に必要なもので其外に何も要を爲すとハ出來ない其外一般の人にハ宗教の方から出た徳育でなけれバ少しも要を爲さぬものであろうと愈〻私の考へじやと思ふのです

それなれバ宗教はどういふ宗教がよかろうといふ問題が其次きに出て來る、どんな宗教を用たらば利目があるだろうといふ問題が出て來るが私は宗教の深い所を知らぬ大躰の性質を知て居る大躰の性質は道徳哲學から見れば眞理に適はぬ者と見なければならぬ委しい事を知りませんからどの宗教がよかろうと私が決して定める事は出來ぬ唯だ今日迄の世界に利目のあつた所の跡に就て事實の上に就いて考へて見れば耶蘇教が一番效績があつたやうに考へらるゝ佛教の方は一躰の様子を考て見れば哲學迄もハイッテ居る様で餘程深い道理まで説いてあッて中々耶蘇教などの様な淺い者でない餘程高尚な者でありますけれ共併し宗教とした效能では耶蘇教程の效能はなかろうと考へます併しなから昔は佛教も效能があつたでありませうが今日では效能が薄いように考へらるゝ此佛教の效能の薄いのは宗教の悪いのではなく宗教を掌る人が充分適當した人が澤山ない爲に佛教の利目がないのかも知れません夫は

どうだか知りませんが耶蘇教は今日歐羅巴に充分效能がある尤も昔しより大效能が衰へて居るけれども今日でも隨分ある歐羅巴では上等社會でも耶蘇教を信ずる人が多い歐羅巴の氣風や思想の大部分は耶蘇教が元となッてそうして其國の氣風や思想がそれから生だされて居るそれ程效能のある者併し學者の說では宗教は效能がない人民の思想や氣風を生みだす者ではないといふが私はッンナ力の薄い者とは見ない併し力が薄いとか澤山あるとか云ふとは今日此處で論ずるとは出來ませんから措まして唯私は宗教は隨分力のあるものそうして國民の氣風や思想の大いなる原素になッて居る者と考へらるゝ歐羅巴では上等社會と雖も今日勢力を以て居るそういふ所の經驗から耶蘇教が一番效能があるものであると私は思ふ併し私がそれを必ずそうだと主張するとは出來ません又私が主張したいと思ッた所が夫を主張するとが出來ぬ譯があるなぜといふのに先刻申した通り今德育の主義をどういふ鹽梅にしたらよかろうといふとを學者や、教育家が評議するとでない學者や、教育家か評議して定める性質の者でないそんな輕いものでない自然から出て來る者でなければならぬ學者、教育家の協議で定まる輕いものでないから私が宗教の中では耶蘇教が宜いと思た所が耶蘇教計りで外の宗教は捨てゝしまふが宜いといふのではないそれは私ばかりではない教育の權利を持て居る文部大臣がそうしようと思ても出來るものでない私はどんな宗教でも搆はず日本の宗教は皆な德育に用るようにするが一番よかろうそれから宗教計りでなく孔孟の儒教は宗教と違つて居りますけれども先づ宗教に似た所もあり西洋人なども宗教の部類に容れて論ずる人もある日本では維新前は上等社會は儒教が德育の中に入れて在りましたから儒教を德育の中に入れて少しも取捨せず先づ神道、佛教、耶蘇教、儒教は日本にある宗教と見てそれを用るが宜しかろうそう私がいふときは又一つ駁論が出て來るそういふ鹽梅に宗教を皆な德育に用たら宜ろうと云はどういふにするかそんなら前に惡口を云たゴタマゼ主義になるだろう御前はゴタマゼ主義はいかぬと云たが自分でゴタマゼ主義を主張するとではないかといふ駁論が出ませうが其駁論に答ふる前に云はなければならぬとがある德育と云者は習へば習ふといふとを申しましたが宗教主義でなければならぬといふとを今少しく委しく云はなければなりません宗教は有り難いとか恐ろしいとか不思議の本尊樣がなければはならぬ本尊樣が命令して拵へなければはならぬ

學者や教育家が評議して定めたゴタマゼの德育ではいけないと云ふ道理を固めなければ分るまいと思ひます其德育を說くには哲學の主義に因らなければならぬ之は深い哲學主義に因て之から少し道德哲學のとに就て御話し致します

道德哲學と申しました德育は色々の派があッて一の派に定ッたとはないが私がよかろうといふ所を擇び取て私の說として御話ししますそれ故に臆說か知りませんが私が信して居りますから道德哲學の主義に因て德育は宗敎でなければならぬと云ふとを引き出して來なければなりません併しそれは淺いとより外仕方がないそれは爰に書いた道德の主義は愛他心といふものであろう愛他心は支那で云へば仁といひ佛敎で云へば慈悲ヤツで愛日本に飜譯すれば有り難い支那で云へば他人を愛する心愛他心が此三通りあります私が之をヒックルメテ云ふので西洋人の說にヒックルメタ說はない此三通より外にながろうといふとをザット云はなければなりません此三通りのとを御話しする前に人間には愛己心と愛他心とある即ち己を愛する心と他人を愛する心と二あるかどうか二とも元來あるものかどうか又此の二の中に本末輕重の違かある昔からそういふ哲學には議論がある或は愛己心も愛他心も人間に固有して居るといふ說と又愛他心はなく愛己心ばかりだといふ說と二ある夫から議論が六つかしいがそういふ講釋は迚も出來ない私は愛己心ばかりは固有であるといふ說か宜かろうと思ふ人間は元來己の爲を考へるばかりて人の爲めを考ることはしない愛己心ばかりが人間にあらば愛他心がどうして出來るかといふ問題か起て來なければならないそこで愛他心といふものがどういふ譯て出て來たかといふに愛己心から生して來た元來なかつた愛他心か愛己心から出て來たけれども何時までも愛己心の緣か切れす一躰か愛己心て唯姿か愛他心になつて居るのた夫たから愛他心か表は愛他心はあるけれとも裏を見ると矢張愛己心てあるといふ道理か出て來る其事を鳥渡御話ししますそういふことは哲學て御存じの方もありませうけれとも概略御話ししおくつてはならぬ

第一「自然能的愛他心」是れは人間は人の樂しみ人の苦しみを皆人の事と思わずに自分のことのように思て樂しみ苦しみ重もに親子兄弟夫婦なとゝいふ近い所にある親が子を愛する母親か子を愛するのは一番てす子か喜こへば母親か嬉しい子か悲しめは誠に悲しい當人の母親の方から思へは樂しみ苦しみか當人の身にあるよりはもつと切なるものてある夫れてなく

ても近い關係のあるものは皆そうてあります人の樂しみを見て樂しみ人の悲しみを見て悲しむは自分の事のように思ふ人の事のように思はない自分に嬉しい事悲しい事のように思ひ悲しく感することとか自然に起て來る之れは敎に依て起るのでなく自然に依て起る人の苦樂利害を人の苦樂利害と思はず自分の苦樂利害と思ふ夫たから其人の爲を思ふ親が子を愛するは子を愛すれは自分の心持か宜しい或は子に悲しみかあれば自分に悲しみかある夫たから親の悲しみのないように子を愛する又子から親を愛するも其通りてある兄弟夫婦もそうてある或は他人てもそうてある之れは敎かなくても自然に起て來る

第二の「感情的即ち道德敎的愛他心」之れは昔宗敎か開けるに隨て出來てきた宗敎て道德を敎へて出來て來た之れは神樣とか佛樣とか天帝とか人間より高い靈妙不思議の者があッて本尊樣にあるものを恐れ敬するといふ所から起る愛他心なぜといふのに道德の敎か始まッて道德て敎へる事は神樣かあッて神樣は尊いものてある或は人間を産んたものてあるとか人間を支配するものてあるとか夫たから尊敬しなければならぬ其神樣は人間同士が互に相愛し相敬するといふことを人間に御命しなさるものてある夫たから神樣に依て相愛さなければならぬ夫たから忠信孝悌慈悲仁愛は神樣の敎であるからしなければならぬ之れは神樣ても佛樣ても「ゴット」ても宜しいと論していふのでありまする其敎か染み込んで來れは本尊樣を敬愛する其次は人間同士を敬愛する道德は行はれる之れは人間の上に位する靈妙不思議な本尊樣の感情か移て起るのてありますから感情的愛他心と名を付ました

第三の「知識的即ち利害的愛他心」は始の二と違ひ之れは愛他心といッても實に惡い愛他心の樣に考へる之れは人間の知慧か進て來と增して來る愛他心此の愛他心は自分の爲めを思て夫から向を親切に取り扱う向を愛するは自分の爲めを計て愛する夫れたから智識から出て來る自分の利害から出て來るから利害的愛他心と名を付ました例を擧けて見れは一家の內て召使かあッて其召使か主人の爲めに能く働らき主人の言ひ付より能く働くといふ其心はどういふものかといふと主人から多く給金を貰ふ樣になりたい主人の氣に入る樣に働らく主人を愛するのたけれとも給金を貰ふといふ自分の利害か元にあッて居る又商人か良い物を安すく賣る其物を安すくするのは買手を愛するのて買手を愛するのは宜い物を安すく賣れは自

分の評判が高くなッて益々能くなる自分の利益を考へて向ふを愛するから即ち利害的愛他心又政治家が人民の信用を得て自分の權力を强し自分の地位を固くしようといふ爲に人民を愛する人民を愛する元ハ名望權力を高くする事を元に立てヽ愛する即ち利害的であります此の利害的愛他心ハ自分の事を考がへて向ふを愛する愛他心であるから向ふ次第でちッとも愛他心が起らない向ふを親切にすれば向ふから親切に酬ゆると思ふ人であれバ愛さない向ふに功能がないと思ふ人なれば愛さない自分の派の人であれバ愛さない强い人ハ弱い人を愛さん向ふが弱い人ハ愛しても役に立たぬそうだから開らけぬ邦で國王が人民を暴虐して愛さぬ人民が知識がないから唯々諾々として從て居る夫れだから愛した所が功能がないから愛さぬ又開ん邦で男が女を愛さぬ女が唯々諾々として男に從から愛さぬそういふ樣に三番目の愛他心は賴み甲斐がない狡猾な愛他心である併しながら私の考にハ此の愛他心が世の中には廣い領分を持て居ると思ふ何んとなれば初の感動ハ近い關係がなければは行ハれない親兄弟知友などは人の事も自分の事の樣に思ふが丸で知らぬ人に苦樂利害を敎へても感ずる事ハ出來ない第二番目も昔から道德が立て居るが行ハれない第三番目が一番廣い今日社會が治まッて行くのハ大抵此の愛他心で治まッて行く一國ばかりでない萬國交際の上でも行ハれる此の上に知識が進て上下貴賤貧富或ハ男女といふ樣に關係が少くない又段々開けるに隨て能く行ハれる夫れから此の愛他心ハ今第一に自分の損得を目安に立てヽ起る愛他心であるから誠に賴み甲斐がない樣な愛他心であるまた深い所まではいかん自分の命ちまで捨てヽ人の爲めにする樣な愛他心ハ此の三番目から出るものでない　（未完）

●叢話

○和書講義（第四節）

變異合理狂怪求理の外に繪空事といふ事あり曩に言へる故實や實事なき事を書がいて却て趣を幽にし或ハ人情に適ハしむるなり然れども是又甚だ難事にして凡筆の得べきところにあらず圓山應擧嘗て防火の効に報ゆる爲防火丁某の幽靈を背に書かん事を乞て止まざるによりよぎなく筆をとりて書きければ某大に喜て刺繡となし其悽怨悲愴の狀さながら言わんとするが如きにより噂さ高くなりたれども己ハ是を見る事あたはず佗日祇園祭禮の時寶鏡中に怨靈の現れたるを視て大に驚き

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

よく〳〵見れば己の背の刺繍ありそれより心憶して其夜あにとあく心地悪しくあり魘わる丶事甚しく終に物狂わしき擧動をあせり或寺の僧此事を聞て針持てかの幽靈の面部を悉く衝きつぶし大なる鏡に之をうつしけれは某見て大に安堵し後魘わる丶事あく病も愈しとそ(東洋繪書叢誌)いかに應擧が寫生の名人だとて幽靈が私を寫せといふて來そうあ事もなし加之世間幽靈の事は大底相似たる噺にして實際有る樣にも信ぜられず然るに此樣の現況を與へしはいかにも不可思議の事なり如此奇妙はさしをき他の幽靈とても其出所は柳の下か荒はてたる墓所にかぎる間じけれとも若し松の下に拳を振揚て立つか西洋造りの家へ洋服靴履きにては甚だ不似合なるべしやはり柳の下か墓所で半身を現し兩手を垂れて立たねば凄愴悲怨の情が見へず是等は即ち所謂繪そら事あれども物に就て情を寫すは畫の活法あり又小督彈琴の圖とて古き茅屋の内に一人の宮女月に乘じて琴を調へ籬の外に烏帽子狩衣の官人馬上に笛を吹き奥床しく寫せるは平家物語等の書に小督は「高倉天皇の宮女にして容貌麗しく且つ能く琴を彈くを以て　帝の寵愛淺からざりしが平　清盛己が女を以て中宮とあしてより小督を忌み害を加へんとすときに宮中を逃れ出で知るべを尋ね嵯峨野の奥に隱れしに又あらわれては如何ある憂目に遭も計られずとて明日大原に去て尼とならんと覺悟を定め今夜限りの名殘りにと彈き馴れし琴を取出し想夫戀の一曲を調たり時しも八月十五夜にて　帝は月に對し常に思ひ絶せぬ小督の事を思出され宿直せる中宮大夫仲國を召し一通の御書と御服とを出し賜ひ彼を尋ね渡せよとて御寮の馬を賜はりたり仲國は風に聞く嵯峨野わたりを尋ぬるに木立の中より琴の音漏出で丶其調べ曾て宴に侍り笛を吹きしとき小督が合奏せし爪音に彷彿たれば是なんその隱家あるべしと窺見るに中より一侍女の出て之を制せしをも聞かず直に片板戸押開き御書と御服を參らせ　帝の御言をも傳へ其返書を携へ歸りて之を奏し又重て迎に行きて宮中に伴ひける其后此事清盛の耳に入り小督は追放されたり之に依て是を觀れは屋内の琴と馬上の笛と相和する趣を書きしは宮中と嵯峨野とを湊合して一となせしものあり(東洋繪書叢誌)是等は故實とは相違あれども大に其感情を深くするの高趣向ありといふべし

○附評一則　左は築地名和香樟氏ゟ寄贈ありたる也

和書講義第三節に書は故實によるか又は事實によるか或は古人の圖に倣ふか然らざれば誤まりを寫すと多しとの訓言

寔に然るとなりされど古人の圖亦誤りなきを保し難し故に古人の圖に倣ふて其失あるを悟らざるときハ終に古人に欺かれて止むものあり之れ素より出所あり據準する所あるを以て其罪己に歸せずと雖ども識者の笑を免かれず尤も愼むべき事あり今左に掲ぐる一話ハ頗る其の適例とするに足るを以て敢て世の未た知らざるの士女に告ぐ

往年加州の藩に佐々木泉玄といへる鶴澤派の畫師ありけり或時加州侯泉玄に仰ありて鷹の巣籠りの雙幅を畫かしむ且つ君侯の曰はるゝは汝能く畫き得るや否若し圖を作るに困しまば探幽の古圖有り之を貸し與へんとの御聞けに泉玄畏て對ふる樣臣自から意匠の御座候願くは探幽の古圖は臣が畫成るの後に於て拜見を許し賜はらんとて御前を退きけりこのとき泉玄が探幽の古圖を見る事を願はざりしは特に己の腕前を顯し呉れんとの志操にて然辭みけん左れども泉玄その後ち百方考案をなせど自ら圖を作る事難かりしかは憂悶限りなく如何せんものと獨り工夫にのみ暮れ居たり（讀む人此段に於て己が意匠を胸間に畫くを要す是れ讀書の法也）斯りし程に泉玄自から考案を得ず遂に鷹師某の許に就て鷹の巣籠の狀を問ひ聽き圖畫の敷置を謀ることとはありける某の曰く余は鷹師なれば繪事を知らず然れども余が示し授くる所に從てその如く之れを畫き毫しも子の意匠を用ふる勿れと敎へたりしかば泉玄大に悅び某が敎ふるかまゝに從て一幅には雌鷹巢に在て三の雛を育む狀を畫き一幅には雄鷹の山鵲を摑みて巣に飛歸るところを物しやがて圖成り之を侯に呈せしに侯大に嘉賞し玉ふと云ふ扨て泉玄は前の約の如く請ふて探幽の古圖を借覽せしに其圖たる雌鷹は五六の雛を育て雄鷹は野鴨を摑みて飛び歸るものなりし泉玄他日之を鷹師に話たるに鷹師笑て曰ふ鷹の卵を孚下すは率ね二個に過ぎす余が三雛を畫かしめたるは數四の嫌忌を避けしめたるのみ又鷹の巣に在るは首夏の頃ろにて外國なればイザ知らす我が日本にては野鴨の居る時にあらぬものを探幽の圖は所謂畫空事ありといひけるとぞその他牧童が或る名畫師の鬪牛の圖を觀て嗤笑し樵夫が應擧の臥猪の圖を覽て非難したるの話しは多くある事あり若し泉玄をして初めに探幽の畫に傚ハしめバ終に其謬を知らずして止みたるべし

"Painting, with all its technicalities, difficulties, and peculiar ends, is nothing but a noble and expressive language, invaluable as the vehicle of thought, but by itself nothing."

Ruskin.

○何事をか爲せ（第二）

クレーク夫人述
高橋善作譯

右樣の不都合の實際に存するとは確かなる實事にして殆んど世に隱れなきとなれば其の何故に起り來りしかの理由原因の說明は先づ之を識者に委ぬるとして扨て此の不都合を多少改むるの方法に付て頗ぶる思慮を費やせし婦人ありとせば其觀察經驗を經て到着せる結論を世に示して憚る所なく或は言論に或は實地に其の改良策を主張するは實に願はしく且つあらまほしきとにあらずや而して余熟ら此社會の骨髓たる中等社會を觀るに婦人生活の根本に在る病毒の主なるは其何事をも爲さずして閑居するに在りと信ぜらるゝなり。

此章にて余が格別に論述せんとする所は幸か不幸かの命運に從つて既に世路を經來りたる婦人方に在らずして曾て何事をも爲さず養育せられたる若き貴婦人方にあるなり、トーマス、リチャード及びヘンリー等の兄弟は早く其學校に在りし日より互に勵みて必ず何事をか爲し各自一個の人物とならんと勉むるが故に銀行、商店、學校等の事務は彼等銘々に其目的を固ふし其全力を集めて向來働くべき幸福なる場所を與へたり彼等は實に人間の心靈に營養を與ふると云へる彼の職業なるものを得たり彼等若し其性質の嫌ふに由りてか或は事情に妨げられてか此の何事をも爲さゞるの運びに至りしならば此人は何如に憐むに堪へたる一個の生物たりし乎唯だ碌々として怠慢遊惰に耽り或は火邊に暖まり或は巨指を捻ねり愚鈍不活潑にして且つ不愉快なる動物となり了するに過ぎず是れ果して何に由るか他なし其の爲す所ろなきが故なるべし而して悲しむべき哉彼の婦人の生活は多少或は過半又甚しきに至ては生涯の間だ正さしく此有樣に陷り居るもの也。

何人にても天帝の攝理は男子は働らき女子は働らかざる樣に造り玉ひしなりとは公けにに口するを能はざるべし然れども尙ほ暗に之を主張するものあるは眞に驚くべきとなり蓋し婦人は唯だ容色媚妍身躰溫柔言語囀々小鳥の音の如く擧動軟弱一見人の魂を奪ふて而も何事をも爲す能はざるとを誇り頻に說教するものあるが故なり斯るとは外面美事の如きとも實に婦人を墜落せしむるの張本なれば彼の女性の愚鈍なる慾心は或は之に耳を傾むくるとも苟くも普通の精神ある婦人は痛く之を嫌惡擯斥して之れ啻に婦女のみならず其の造物主までをも辱かしむるものなりとすべし。

右と等しく踐濱にして且つ猶ほ一層有害なるは男女同權を主張する大聲なり婦女子の多數は其己の義務をも知らず又知るも之を盡くす能はざるに之を驅て男子の地位と之に從ふ義務の內に突入せしめんとするは甚はだ粗暴なる計畫なりと云ふべし果して然かせば何如に善良なる事物の有樣を呈出すべき乎誰れか言語多くして徒らに混雜すれども而も主意の貫通するとなき一婦人委員の演舌を二時間聞きたりとて直ちに行きて下院議員に一女子を投票するものあらんや又誰れか一貫婦人より書翰を受けたりとて直ちに(概して言へば)吾國の裁判所に老婦の代言士を充たしめ大學に金色の美髮を戴ける嬋妍たる女子の卒業生を滿さんと希望するものとならん乎。

否な男女同權は事物の自然に於て在るまじきことなり蓋し男女は互ひの爲に造られしものにして共に等しきものとして造られしにあらざればなり而して人類普通に主張すべき唯一の權あり此は男子に屬すると等しく吾人女子に屬するものなり即はち何事をか爲し得べきの權之れなり。

兩性は互ひに勞力して一は其「面に汗し」他は「苦みて子を產み」又之を育だつべきものなるは決して疑を容る能はざる所なるべし假令ひ世の開明進歩より起る變化もしくは一身上の事情に依りて常に此の如き運命に遭遇せざるとも其舉動は決して此の最も高尙なる働らきの必要を消滅することなし何んとなれば婦女子も必らず德義上、肉躰上、及び心靈上にて外狀異なるも等しく爲すべきの職務あればなり。然れども玆に注意する所の父母甚だ少きを如何んせん彼のトーマス、リチャード、ヘンリー等は學校を出でゝ其の生活の途に就く然れども女子等は等しく其教育を卒れば家に歸りて止まるのみ父母も之を以て滿足し最早夏學校を卒業したれば其爲す所に任かすべしと斯くて彼等を視し其欲する所は何物をも與へ美服を飾らしめ遊樂の器具を備へ華美の交際に入らしめ容姿甚はだ愛すべく之を客殿に座せしめば幾多の花より美へし家事の万端は父母之を理して嘗て彼等を煩へせず左れば閑暇多くして爲すに事なく金を有すると多きも之を用ゆると至て少く遊樂裕まりなきも有益なる目的を以て爲すとなく追從甘言耳に滿てども嘗て眞に其心を益する確言を聞かず而して心靈常に餓ゆ彼等の爲さんとする所ろは唯だ色情の慾に動かさるゝものゝみ故に齡至て僅かに之を解するや直に之に陷いるもの滔々として是なり。

人彼等を以て戀を爲すものとすれども其實唯だ怠慢なる暇過ぎず」とは彼のラセラス傳中にある智き旋惰人イムラクの最も當れる言にして又此は男子より寧ろ女子の墜落せる生涯に多く遭遇せる所なり此の愛戀は概ね妄想の中に在りて實に之を行ふに非ず其目的は通例遂し得ざる所ろ或は昇騰なる所に在り父は不快の心を抱き母は驚歎心痛せり之れ唯だ一の惡しき事にして更に結婚の好果を得るに至らず其の結果果して如何ならん。

之に次で起り來るものは心靈及び肉躰の上に不幸なる苦痛の長時期なり忿怒悒鬱其心を滿たし由なきとに父母に不平を鳴らし荒れたる世路を歩むもの也漸くに此時期を經過するに從つて愛戀の愚なる事を知るに至る而して今は其希望を全く婚緣の事に向くるなり然れど人物を認めて之を望むに非ず何人にても此の怠惰悒鬱より己を救ひ出し生活の方法を與へ惰慢無爲の時間を充たしむるものを求むるなるべし。

扨て彼の男子婚緣を受入るれば善けれども不幸にして之を承知せざれば憐むべし此女子は第三の時期に進み入るなり失望悒鬱にして其生命をも尙ほ重荷の如く感じ不發生を事として爲に一家族に不幸禍を感ぜしむるに至る女自ら此苦を苦しむと雖ども猶ほ其の心裏の病根何の處にあるを知らず女其要望するものを明らかに知らずと雖も而も其心裏恒に何物かを渴望するとを承知せり之れ果して何物ぞや。

「其手の懶惰たるを見て「サタン」(惡魔)は猶ほ害の加ふへきを悟れり」との古語は意見に敎ゆへきことを知れども世の母たる者嘗てこれを女子に適用するものなし而して其女子等の勢力は皆な斯とく彼老將タイム(時間の義也)を打滅ぼさんが爲に用ひらるゝなり彼を刺すに縫箔の針を以てし調子外の「ピヤノ」、琴を以て其耳を聾にし來遊人を以て彼を寸斷にし用もなきに友人の家を訪ひ以て其家每に彼の死体を留む或は遊樂踏舞に夜を深し翌朝十時猶ほ寢所に在り憐むへし彼タイム漸く衰へて遂に死に至る而して女子等自ら彼を殺して猶ほ未た覺らず此世の境を出つるとき或は來るへき世に入るの岸に於て始めて「爾はタイムを如何になせし哉」と問はるへし實に何物にても一度失ふも亦た之を得ることあり然れど唯た時間は決して再たび之を得難きものなり。

然れども此大なる非、此得難き損亡は唯た其無考の決果として數々婦人の上に起ると多し男子は幼少より時の貝價を知りて善く之を利用するを敎ゆらるれども婦人には甚た稀に或は絕てなきとなり人若し反物を取り之を寸斷して後ち美服を得んと欲せば其愚を笑わざるものなかるへし然れば空しく半日を費し午后の中に終日の業を爲さんとするとも何そ能せん乎恒に數分の時を惜まずして消費せば終には大負債を生すへし否時を盜むの賊となるへし而して此等の事實嘗て婦人等の注意するところとならさるは嘆すへきとなり。

これ唯た婦人等を咎むへきに非ず何となれば事業に慣わざればなり「時は金なり」とは男子のとなりと思ひ嘗て己は此物品を所有するとを知らさるなり余思ふに婦人に取りては恐らくは時は金に非さるへし然も「時は即ち生命也」何となれば時を空しく費すは即ち生命を空しく費すものなり有用の時を送るは有益の生活をなすもの無用の時を送るは無益の生活をなすものなりうれ生命は人類各自に賦與せられたる天の賜にて我儕婦人は配偶の有無に關せず男子と等しく實に神の前に責任あるものなり。

十七歲以上の我か諸愛姉等よ諸姉の時は其の父兄の時と等しく要用なるものなり父兄か其時に向つて責任あるか如く諸姉も各其時に對して責任あり之を妄費するは唯た己の所有品のみならず併て己の魂を妄費するなり而してこは己のものに非ず己の主宰なる神の屬なり。

余信す茲に其由縁ありうれ始めにアタム及エバの彼樂園に置かれし其時より以來上帝は爲すべき業を與ねずして一人の男をも女をも世に生じ給ひしとなし必ず其死後に多少見るべき業を遺すべき爲なり。

若き諸愛姉よ熟慮せよ若し僅か十八歲或は二十歲或は三十歲にて天の召を蒙り世を去らんとせる諸姉ハ死後ハ何をか遺さんとする哉恐らくは多くの縫箔物、種々の愉快又ハ親愛を顯ハす書翰及び善良なる働きの計畫等も多少あるべし而して其餘ハ唯だ墓石に遺す己の名稱或ハ數年間家族朋友の間に記憶を存するのみ他に絕てあるとなし「嗚呼憐む可し吾愛する某ハ實に愛らしく爽快なる女子なりしものを」と言ハるゝとも爾ハ同胞世人の利益を爲せしと幾何ならんや。

然れど「我生涯には何を爲すへき哉」これ曾て、結婚せし者せざる者を問ハず各自皆な用ゆべき生命を有するとを悟りたる婦人の一人が余に問へる問題にして最も大切なる要點なり。

抑も男女の職務ハ各自から異なりて一ハ家外にあり他ハ家內にあり、一ハ外部他ハ內部にあり一ハ進て働き他ハ退て守るなり男ハ進んで其途を求め女の務ハ恒に其足下に橫ハるなり然れど等しく一個の職務にして等しく貴とく又離きものなり而して風俗習慣ハ如何に反對するとも若し生命ハ貴重すべく幸福なるべくんば各ゝ斷然として其途を踏むべきものなり然れば何事を爲すべき哉。

此點に至つてハ誰れも確と答ふる能ハず性質、風韻、能力、事情、皆な各ゝ異にして其友人中六人の職務を一定せんとするも決して能ハざる所なりされば諺にも「依之病婦ハ自からを看護すべし」と云へるなり。

爲すべき所甚だ數多くして其撰定に苦しむ者至て稀なり婦人ハ概して其手の傍らに其務を見出すべし而してこれ最も確かなる職なり即ち懶惰を改めて勉强をなし不締なる家事を正し或は兒童を敎ゆ或ハ兩親を看護する等なり而して此內事既に整ふて己れの助を要せざるに至るか或ハ初より此務なき者ハ更に進んで世間に其働を延ぶすべし今の世程吾儕婦人の輔助を要する時代ハ未た曾てあらざる所なり種々の義務殊に慈善の業に至てハ程く且つ懇切なる婦人の手ハ遙に男子に勝るものあるなり。

茲に金言あり吾儕これに從つて此を爲すべし聖書に曰く「凡て汝の手に堪ることハ力を盡くしてこれを爲せ」と諸姉よ其事を疑問せず其理論をのみ研究せず寧ろ默してこれを爲すへし唯た之を爲すへし之を完全し盡くすに非ざれば決して足れりとすへからず其事の大小に關らず學校の創設より針仕事に至るまで「凡て汝の手に堪る事ハ力を盡くしてこれを爲せ」其遂くるまで撓むべからず日々其日を送る每に今日何を爲せしかを思ひ視よ自他の快樂を取りしを以て足れりとすべからず眞に快樂ハ善きとなり然れど其快樂ハ己れ日々力を盡し彼の男子にも恥ぢざる確乎たる事業を爲し遂ぐるより來るものなるべし男子ハ富貴名譽の爲めに働かん吾人ハ義務と愛の爲めに盡くすべし全心我同胞を愛し更に進んで神を敬愛する事業の爲めに力を盡すべきなり。

諺に「勞力ハ貴重すべし」と云へり然れども余思ふに實に勞力ハ即ち幸福なり試に生涯爲す所なく空しく其歲月を消費する老若婦人の不爽快なる生活と恒に事務を爲して多忙なる姉妹即ち、遊樂ハ人世の變にして業務ハ自然に適ひ且つ至聖なる必要の事なりとの一般の理法を信じ從て己の務を求め力を盡くし之を爲し遂げんとする婦人等の生活を比較せよ其幸不幸ハ何れにあるか言ハずして明白なると也此流の婦人は概ね世に名譽を博すると稀なり余ハ唯た己の嗜き好嗜に引かされて職業を爲すものを此流の婦人中に數ふるに非ず余ハ活潑有爲勉强の生活を爲すものを指すなり其生活ハ自づから其內に完備し懶惰遲鈍の處女の如く親族朋友を煩ハすとなし否情事に至るまでも愛ふへきとなし若し時に依て情事の起るとあるせ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

もこれ恐くハ神の攝理に由るものにて甚はた慶賀すべきことなり彼等既てに活潑多忙の娘嫁なりしならばまた善良の妻女たるべきのみ然れども男子を迷はすべき温柔の情は目途なき婦人には一大必要點ならんが此流の婦人に付ては何の用もなきもの也（未完）

●佳傳

○サイビリアの女傑（第三）

然れど玆に一の困難と云ふは旅行劵なくては一日も旅に就く事の出來ざる成規なるにこれを得るの方法なきことにぞある去りとて止むべきにあらざれば猶も思を周らすに幸ひ懇意の隣人あり此人こそと詳しく其志を告げ援助の程を願ひしに早速承知ひたれば直ちに願書を認めしに父の調印を要すとのことなればプラスコベは更に思を熱くして只管父の認可を願ひ出で且つは其調印をも望みければ父は叱してこれを止めんかイヤイヤ不慮の過あらんも計り難し忍びてこれを許さんか肉を割くの思ありと心二つの間に往來して暫し決すると能はざりしが遂に娘が志の確きを覺りけん但しは自ら計る處のあるにや其望を聞き屆け調印なし與へ猶また巳のが願書一通を添へ政府へ向けて送りたりける。

然れば娘が心中に埋まりし百斛の幽憤は忽ち散じ去りて頰は紅を潮し來り髮は金を添へ輝き日に健康しく見へしかば父母も大に心を安んじたりプラスコベは只管旅行劵の下るを待ち今日は來ぬらん明日は來もせんと夕な〳〵都外づれに逍遙し首を伸して脚夫の到るを待ちたりしが一月と逝き二月と立ち早や五つ月を過せども何んの音もなかりければ今は殆んど望を失ひたりしに漸く六月の末つ方一通の郵書ロパロウが家に來にけり待ちに待ちたる事なれば家内打ち集り取る手遲しと封をし開けばソット見へたる旅行劵百年の希望を達せしプラスコベは心動き胸打ち騷ぎ早く見せ玉へ見せ玉へと父が右手に攀ぢ付けど父は別に思ふ處あるらん旅行劵をば左手に取り換へ猶も袋中を索むるに更に一物も見へざりければ千々に願ひし請願の又もや聞れざりつるよと思はず亂る無限の情滿面朱を流し來りて旅行劵をば後へに投げやり聲を荒らゝげ「ナラヌ〳〵」と言ひ放てば豫て許せし父の言葉は寸時の喜びを伴つて可惜空しく失せにける。

扨も魯西亞の國はグリーキ教勢を得て國の大半これに信從せり母なる人は元と魯國の生なれば幼き時より其の教化をぞ受けたりける故兎角妄信に陷る事のあるも是非なけれ中にも瑣少の憂苦を身に覺ゆる時不虞の災に罹る折など之天の罰にやあらんずらん自の運命には禦なきやと思ひ憂ひ迷ひ迷ひて解

能はざる時ハ最とも苦々しき面持にて聖書を取り上げ一二節を讀み下し神の敎を受くる心地してこれ神の豫言あり宣托ありと信するが如き母が迷の甚しきものなるべし然るにこれよりしてプラスコベが志を固むる偶然の出來事ぞ起りけるそハ或る雨降り風劇しく四山暗澹として物情凄き夜ありけん家内の祈禱を爲さばやとプラスコベは母の許に來りしが俄かに母に申す樣母樣どうか聖書を開けて右の手の第十一行目を讀みて下されませ」と乞はれて母ハ何心なく聖書取り上げ針の先きにて打ち開き第十一行目を算へ得て常の如く聲朗らかに「今神の使ハーカルに遣ハされ言ける樣爾ハーカルよ何事か爾を痛めん恐るゝ勿れ」と讀み上げたり。

不思議や此の一節こそ實にプラスコベが望に的中する言葉なれは母ハ正しく神の宣托ありと信じ此の趣を父に告げける父は斯る道理なき事を信ずる人にあらざれば頭を振りて「汝ハ神樣の聖き言葉を只僅かに針の先きにて告げ得ると思ふかさてハ神樣は斯る道理なき法外の求をも聞き玉と信ずるよな」といふを打ち聞きプラスコベハ進み出で「左樣とも若し我等信して忍ばゝ何事にても出來ぬ事ハ候はじ」と精神溢れて見へしかバ父は娘が或は脱走して出で行かんも計り難しと掛念し陰かに旅行劵をバ隱し置きぬ。

プラスコベは自ら計る所用ひられざれば日に鬱々として樂まず身躰日に細り行きける扨ハ可愛娘の生命を喪ハんか但しは其望を許さんか二つに一つを採らざるべからざる場合となれり或日の事に父ハ母に向ひて何如に彼孃を爲すぞ宜からん到底遣らねばならぬよと思はるゝなど申したり。

プラスコベハ陰かにこれを聞きたりしかバ喜び自ら堪へ難く急きて父に走り着き父が首に掎りなから「父樣其御言葉の眞ならば此度は願くは改ため玉ハざれ之より直樣都に上り天子樣に直々願ひませう神樣ハ私に此事を敎へて下され又父樣を導きて許を下さる樣になし玉ひました其同じ神樣ハ又同じく天子樣を導きて我等の望を叶はせて玉ハりましよう。

ア、コレ娘よ阿孃ハマア其容をして天子樣に直々御願ひ申すといふか阿孃ハ天子樣に申し上ぐるは我れ〱に談す如く易く々しき事と思ひ玉ふか抑も天子樣と申す御方ハ前も後も左も右も皆兵隊と云ふ鐵砲や劍を持ちたる恐ろしひ人々が取り卷ひて居るとゆへ助もなく力もなく最と可憐れなる其阿孃がどうマア御面會が出來ませうぞ啻に御拜顔の出來ぬのみかは反りて辛き目に逢ふやも知れませぬものぞ。

百難不屈のプラスコベは中々に頓着せず喜ひ勇みて旅の備を修めける。

既に出立の日も定まり愈明日と云へる前の日に甲乙群ひ來りて敷居狹ましと集りたれど誰れとて娘が出立を祝するものなし皆其望なきを說き其事の險しきを述べて飽まで其志を挫かんと務めたり中にも殊更親しき二人の村人あり娘か雄々敷志を賞て其孝心の程を譽め心竊かに敬服の躰なりしが餘りに村人の口喧しく論ずるを聞き片腹痛さ堪へ難く「イヤ皆樣左樣の御心配は御無用で御坐る此の娘は必ず善き恩人を獲ますからと申すは誰人にあれ此の娘の人柄を知り倘其上に其の志を聞きたらんには必す此娘を愛しませう既に此娘を愛しますれは必ず其人は其全力を盡して之を護り其志を助くるに違ひありますまい。

東天曉を告ぐこれ正にプラスコベが出立の時なるべし二人の村人は見立せんとて來り會ひけるが旅の用意も整ひたりと見へイザ告辭せんとする際なりければ父は銀一ラアブル（凡七十五錢）を持ち來りて娘に與へたりこれぞロパロウが家を傾けての財にしあればプラスコベが身に取りては千万金に値すらん感涙に堪へざるに彼の懇切なる村人は其志の表とて一人は銀二十コペック（凡そ我が十五錢位）又一人は三十コペック（凡廿五錢）を餞けせしに愈感銘に堪へず餘りに勿躰なしとて押し返し「誠に難有ふ存じますが若しも此度の事にして神樣の聖旨に適ひ私か父母の僅かの爲にも相成ば身に取て何よりの幸で御坐りますからドゥゾ此御贈物は御收め下されませ」と言未だ畢らざるに晒さす朝日は山の峯に出で光線窓を侵し來ればプラスコベは言葉を次ぎ「イザサラばこれより御別れ申しましよう隨分御無事で」とさすがは恩愛の情に淚溢たり。父母は敷居に倚ながら娘が影を見送るに顧もせで行く姿實に雄々しと口には譽めど心の中腸を割くの思あり瞬を切りて見送しが影は雲間に隱るときドット其塲に仆れけりプラスコベは二人の村人に送られて既に街外まで來りしかば玆處に二人に暇を告げ獨り旅にぞなりにける程なく同じ女の道連をば得たりにければ共に語らひ共に行き其夜は同じ宿りに泊りしが谷間に叫ぶ猿の聲軒端に映る月影の客舍の愁を曳くなるに況して女の獨り旅父母に別れて初旅寐女傑ながらも今はいと心淋しく思ひしに想ひ起せは其昔ハーカルが沙漠の中の旅枕幼なき時讀みしことを今は我身の敎かやと忽ち力を加へける。山又川を越へ渉り既に數日の旅を經てカモヲイケフに近づく

頃暴風俄かに起りて大空墨を流し電光雲間に人を射て劇雨篠を亂るさなきだにプラスコベは數日の旅に疲れ果て歩行も難む時なるに風は帽を奪ひ去り雨は衣を染め浸して今ハはや一歩も進む能はざれば路傍の木陰に立ち寄るに風雨は愈暴威を加へ寄たる木さへも吹き去りけれは余儀なく次の木蔭を求めつゝ寒さ恐さに堪へねども其所に其夜を明ける翌朝近邊を過る農夫ありけりプラスコベの有樣に最とも不愍を覺へ次の村にと伴ひたり去れどプラスコベハ昨宵來の風雨に衣帽を破りしのみならず不食不眠一夜を徹せし事なれは其容貌定めて見苦しかりしならん皆性質惡しき婢と思ひ宿かす家もあらざればば遂に其地の教會堂にぞ赴きしに門は閉して人氣もなし便なしとは思へど外に寄るべき津もなけれは堂の軒端に彳みける田舍小兒の僻として三々五々群ひ來りて口ぎたなく嘲り笑ひあへり折ふし慈善の聞ある一婦人其所を過ぎりしが忽ち不愍の情を催しプラスコベを伴ひて區長の許に到り携ふ所の旅行劵を示し己の家へと連れ歸りぬプラスコベハ敵地に助を得し心地して欣び躍り段梯子をば上らんとせしに俄かに足部に痛を覺へ立つさへ難む程とはなれりこれ疇昔の風雨に靴を失ひ跣走にて歩みたれは足に傷を生ぜしに今や心の弛むに乘じて忽ち痛を感するゆへなるべしされば親切なる貴女の厚意に任かせ尙數日止まりて其所に病を治めける。

秋聲天に滿ちて霜氣骨に入る如何に心は早やれども足の運びの頓々しく宿かる事も重なりしが或日誰歟彼歟過る時なりけり但ある小村に着にけれは一夜の宿を求めしに誰一人貸して進せんといふものなく殆んど困却に餘りしをり年老ひたる一人あり其容貌何となく惡々しく見へつるが貸し參らせんとて自ら案內し家に伴へば妻にやあらん出て迎ふ洋燈の光に顏見れは髮は亂て額を覆ひ眼は輝きて人を射る同じ穴の狐ぞと問はでも知るき容貌風躰ハット思へど所詮遁れぬ事なれは案內の儘に進み寄り爐の側に坐りける老人夫婦は爐の火をばかきながら「ドーシテマー何所へ行くか」と問はれてプラスコベは其大躰を申し述べ「都へ上る者にて」と答しに二人は言葉を次「此所より都はまだ程も遠し定めて旅費の備も十分ならん」「イヤ誠に御恥しひボンノ手薄き貯へのみ」彼是するうち夜は太たく闌けゝれば互に別れて眠に就きしがプラスコベは思ふやう彼等は我言を信ぜず竊み來るは必定ならん其時我言の彌偽なきを示せんに如じとて故意と行李をば見當り安き所に置ぬ案に違わず二人の惡徒時を計りて竊み入り思ふまに〳〵

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

探せども竊むべき品とては一つもなければ腹たてながら夫に燭を持せつゝ妻は躍りて床に跨れば驚き醒めしプラスコベ凉血總身に迸ばしりて暫し言葉もなかりしが「ドーゾ生命丈は助て下されませコレノー御金は外にありませぬ御助け下されませ」と言へど答へぬ夜叉兇漢尙も袖の内沓の內に求めたれど更に銅臭もあらざれば不勝〳〵に其所を立ち去たり餘りの疲にプラスコベは前後左右も辨まへず高鼾して眠しが日影數竿に及ぶ頃漸く醒め最速出立せんと思ひしに昨夜に變る家族の親切妻は藥物を煎じ來り夫は麥酒を暖めて心厚く待しかサテ出立せんとするの際妻は潛かに耳に口寄せ「昨宵の事は夢と思ひ給へかし阿孃の優しき心根と最と窶々しき身の上に我等の心も鎔けました就ては貴孃か御懷を改め玉ふ其砌には我等も貴孃の思ひ玉ふ如き者にあらざるを知り玉ふべしと其言餘りに不思儀なれは行く數丁あらずして懷中を改むるに竊み盡されしとのみ思ひたる金に尙四十コペック(二十錢程)の增加ありたる今に至りて初めて知るプラスコベが志能く彼の殘惡極りなき兇徒を和げしを。

"I was not sent to give signs at Pictoriers, but at the siege of Orleans and at Rheims, when I will show to all the world sure signs of my missions!"

Youn of Arc.

● 寄書

○女子の高等學及女醫

松井廉

人界一日も學なかるべからず學なければ則人智增進せず人智增進せざれば一家一國の事業皆他に先鞭を着けられ始終之に服從せざるべからず。もし人々智術を研磨し衆智を合して一國の智となる則其智の光炎万丈赫々照徹及ばざる處なきに至る之を文明の全美と云ふ今人文明を語れば則歐米を推稱して已む能はず知らず歐米の人貴賤上下人々悉く是明智の人なりや我決して其然らざるを知る然らば歐米の文明は今日の世界萬國に比して其智數歩を進むるに過ぎざるのみ文明の全美に至りては尙ほ去ると遙遠と謂ふべきなり

今夫れ五官五躰衆活生機盡く備具して之を全人と云ふ一耳の欠けたる一指の足らざる尙備具せる人躰と謂ふべからざるにあらずや今三千七百万人の多きを以て學問の鋤鍬を執り心田を開拓して文明の智種を播植せしもの世幾人かある豈に特に一指一耳の不足なるのみならんや僅かに一指一耳の備れるに過ぎざるなり若し將來此智種をして益々播植せしめ全國過半數の男子をして漸く明智なる人たらしむるとも尙井厨を甘して無學無智に安然たる婦女半數の多きを占むるを如何せんや凡人世着々歩を高等に進ましめんとするには彼是競爭を試みんに如くものなし故に余は男子に向て學問智識の開達を願はんよりは婦女に向て之を責め倂男をして自ら恥つる所ありて蹶然と憤悱啓發せしむるの速且つ益あるに如かざるなり男も人なり女も亦人なり獨躰格の剛柔と生殖器の同異あるのみ過激の動作を除くの外豈に學問技術に同一樣の功を奏する能はざるものあらんや況や婦女の性男子に比すれは温雅周密にして高等の學を修むるには却て男子より功を奏し易きの便あるおや

近來婦女の感情此に發動するか如く翕然起て招集し將來の境遇を脫却して男子と自由の快樂を同ふし與に共に文明の光炎を發せんことを勉め其學駸々乎日一日に歩を進むるか如し我鑿國の爲め一大白を浮へて高聲賀を表せざるべからざるなり

嗚呼我親愛なる衆姉妹よ今の時は小野小町の文弱の時節にあらざるなり板額巴の腕力世代にあらざるなり今日こそ文明全美の岸に達せんとする舟中なり一も怠慢油斷の念あることなく前途の方針を誤らずして一日も早く彼岸に達して政治縠々たる政治法律の美花の下に安寧幸福の實を拾ひ樂まんところ希望の至りなり然れども大洋の渡航を試みんものは海路方針固より暗せざるべからず天文星學風雨潮汐の變も亦知らざるべからず況や舊習の險波を凌きて幾千萬里外の岸に達せんとするもの豈に尋常普通の航海術にて期することを得んや

獨奈んせん政府女子の大學に入るを許されざれは普通の學科は修むるに易々なれとも高等の學科を履み學士博士の榮名を取んと欲するの英氣あるも其道なきに若しむなり然りと雖とも苟も志あれば必しも政府の力を借るを要せざるべし見よ彼の有名なる西洋女儒の如き皆政府の力を待たずして大名を宇内に轟かし自國の假

格を進めしにあらすや精神一到弱矢も堅石に徹す婦女子豈何そ自ら之を勉めさるもし志已に高等に向は文理法醫何の擇ぶ所あらん然も其中自ら適當の學術なかるへからす我輩今日に照し四科中に就き尤も婦女子に必用なる一科を指示せんと欲す此學科をして婦女子に修めしめざれハ國も富强の域に進む能へず人も無惱の樂みを見る能ハざる所の醫學是なり

我國古昔大國主神少彦名神と醫藥救濟の法を定めてより其學日に盛に中古に至り施藥院あり悲田院あり當時衛生救濟の法も亦備れるに似たり只其術の精粗未知るへからすと雖も要するに今日世間に存在せる漢家醫より劣れるとも優れるものなきを信するなり然れとも玆に尤も注意すべきとあり乃ち當時政府早く已に女醫の必用を感せし事蹟是なり史に徴するに典藥頭毎年女子の品行あるものを選み十五才より二十五才迄の婦女三十人を取り産科針術灸法及ひ創腫一切外科の施術を講修せしめ毎冬宮内省掛官を臨きて其伎を試み七ケ年にして全科を卒業せしめたり然らハ婦女の醫官たる其來る固に久しと謂ふべし然れども是皆宮中女官の救急に充つるものにして民間の女醫本より此の三十位の少數にて行き届くべきとなければ人民に此女醫の便を感せしむるに至らさりしならん兎に角古昔女醫の設けありしとハ掩ふべからさるの事實なるへし今日民間に産婆及針灸の營業なきにあらされとも政府の試驗を受け七ケ年の螢雪の苦を勉めしものハ一もあらさるなり況や創腫等の外科術を以て門戸を立つるものに至りてハ絶へて無きにあらすや然らハ今日の醫術ハ男醫に一大進歩を現ハせしと雖も女醫に於てハ遠き古に比して消滅に歸せしと亦事實の掩ふへからさるものなり文明の一大欠典と謂ふへし（未完）

●新報

○女生徒勤學　函館遺愛女學校の高等一級生たる石川とし女（十九年）ハ四年前同校へ入學せしものなるが初一念の志業聊かも怠りなく勤學の効著るしく已に高等一級生とまで進歩せしより明年三月の定期試驗に及第卒業の上ハ是非東京に至り今兩三年も英語科を修業したしとの望に兩親も其殊勝なる願に絆され快よく承諾せしかバ同女の滿足云はん方なくどうにか首尾よく卒業せんものと去月以來同校へ寄宿し夜中僅か二時間の睡眠と定め孜々勉勵に他念なしとぞ聞く同女ハ辨天町の商人石川小十郎氏の長女にして明治二年函館大火の際ハ僅か十一二の少女なりしかバ同女ハ右の近火に兩親も途を失ひ爲すことを知らさる折柄逸早くも詩經講孟と詩文を取出し衣類手道具にハ目もかけず逃出せしを以て不幸の一家も之れか爲めに安全なるを得今日も猶商業に從事するを得たるハ全くとし女のお蔭なりと云ふ斯ることより富有と云ふ程の身代にもあらざれ共同女の志願默し難く三ケ年の遊學を快よく承引せしものなりと古諺に二葉より香たしと云ふハ借りて同女を評すべきか（十一月十九日北海道毎日新聞）

○第三回濱松婦人交際會　同會ハ去る十九日濱松田町玄忠寺に於て開會したり今回より男子の手を借らず婦人のみにて周旋し初めに副會頭杉山志ん子開會の趣旨を述べ次ぎに祝辭を朗讀す第二席に藤村のぶ子第三席杉山志ん子第四席鈴木てる子第五席會頭厚芝判事の細君の演説あり最後に來賓内田正氏が教育上に關する演説をなし午後五時頃散會せり當日出席員六十八名にして會頭より會員の証を與へ茶菓を饗し演説の間ハ讃美歌あり靜肅なる會合なりしと

○靜岡私立女學校　豫て計畫中なりし同校ハ愈よ西草深町に假設することに決し教師にハ米人カンニング氏を招聘したり

○見守學校　新潟にて吉田知文氏外四名は協議の上新島町通へ私立見守學校を設立せんと區役所へ出願したりと

○通俗婦人講談會　同會は去月廿六日東京本郷公立小學校に於て午後一時より開會し髙橋國太郎、手島精平、竹中成憲、石川よね子、等諸氏の講談ありしと

○横濱共立女學校　にては此程以來新築中なりし校舍悉皆落成したれば從來の通學者は以來謝絶することゝなし寄宿するもののみを授業するよし

○京都盲啞院　同院にては附屬工場にて今回尋常の婦女子にても滿十三年以上の志願者には入塲を許し裁縫等を教授するよし

○大津婦人慈善會　同會は去月廿日午後一時より寺内顯證寺の大廣間に於て開會式を執行し午后三時頃式を了られたり當日來會員は中井知事の夫人を始じめ書記官警部長收税長郡長各課長の妻女其他の婦人令嬢等總べて二百四五十名にて初めに發起人田口善門氏開會の趣旨を朗讀し次に中井知事の夫人左の祝詞を朗讀せり

婦人慈善會の此地に起らんことを望みたるは年已に久し今日此會の開設を見るに至りたるは深に欣躍に堪へざるなり吾輩叨りに會長に推擧せられ素より其任に當らざれども只諸役員の補翼と會員の篤志とに依り益〻此會の隆盛に赴かんことを希ふのみ此開會の式に臨み之を祝詞とす　中井竹子

○小笠原島の婦人　此の島の婦人の頭髮は實に驚くべき程長がくして多くは肩より垂れて踵に至る而して其結び方は老若の區別なく皆々島田曲の如き者を戴きて帶は前の方にて結すび其言語音調は頗ぶる京都婦人に似て優長なり又奇なるは婦人の名の雲井、梅ヵ香或はさかゑなど古風の者多きことなり此島にて長女の事をニョコと云ひ次女の事をナカ三女をチコ四女をクス五女をヂョー六女をアッパーと云ふ男女の有樣は殆んど同權の傾きあり其理由は元來此島は世人の能く知る如く彼の有名なる八丈縞を出す所なり而して此縞は實に此の島の物產にして島民は之れに由つて生活すると云ふも不可なき有樣なり然かるに此縞を織るものは誰れなるやと云ふに鋤犂を把て桑を植へ田畝の荒仕事をなすものこそ男なれ扨て之を織物に仕上ぐるの一段は皆な女工を借らざるを得ず此れが實に此の傾向を生せしものにして男女同權の事は必竟するに口に之を唱へざるも其の實權のある所に歸すものなるを知る内地の婦人絶海孤島の未開婦人に對して恥づるなきか又此の地には奇なる習慣にて婚姻の節酒の酌を爲す者は其夫婦の中の姉がなす習ひなり而して愈〻婚姻したる上といへども若し男子にして未だ充分家を爲す能ハざれば其間は男の方が妻の内に通ふことにて男子の資產豐かなるを待ちて夫婦別に家を爲すと云ふ又人の死したる時は四十九日の間だ墓所に於て朝夕兩度必ず泣く事なり云々（二十年十一月廿一日時事新報）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●六合雜誌

第八十三號十一月三十日發兌一冊金拾錢

目次●化身論（海老名彈正）○鳥尾得庵居士の無神論を評す（高橋五郎）○基督教徒の一大責任（竹越與三郎）○理學と基督教の關係（石本三十郎）○第一世拿破崙の傳（和田垣謙三）●雜記○出版月評○加藤弘之氏德育方法案○哲學會雜誌評○宮中顧問官西村茂樹君が哲學會に呈出せる質疑を評す○印度人サル、サラル、ヂユング東邦論○社告○廣告

●基督教新聞

第二百二十七號 明治廿年十一月三十日發行

●世事評論。德育方法案。監督學校の試驗成績●社説。信ずるものに於て爲し能はざるものなし●教報。リバイバルの模樣及其他教報●論説。教會の要務を論ず●傳記。ウイルバーフオースの傳（十一回）●雜錄。名家の言、信仰の話、ダルウイン氏の心中●小供の話。三人の綠林豪客●雜報廣告●毎週發兌一冊金三錢府外郵税一錢

發行所 基督教新聞、六合雜誌 東京京橋區日吉町廿番地 **警醒社**

●**看病新説** 三田村敏行譯 十本二冊

●**產婦看護法** 仝譯 小本一冊

●看病必讀 **人躰説** 仝著 小本一冊

右十二月十五日迄に出版す御入用の御方は赤坂區氷川町四番地三田村方まで至急御通知を請ふ

米國の一貴女基督信者にして一日數時間の閑暇あるもの東京内に於て●**英語教授**●に從事せんとす學校又は一個人の家内に信くも何れにても需に應ずべし望の人は東京赤坂氷川町五番地聖書の友事務所迄で申込あるべし

●東京繪入新聞改良廣告

弊社義に期する所ありて紙面に改良を加へ繁を去り冗を除き專ら記事を簡明にし看客の愛顧に背かざらんことを是務めたりしに其期空しからず社運漸次隆盛に趣き紙數の増加廣告依賴の増殖日一日より多きを加へたりき依て此際紙面を擴張なし記事其他一切改良を加へ愈よ進んで看客諸君の眷愛に報ひんことを期し左記の如く十二月一日の發行より之を實施する事に決議したり請ふ江湖の看客諸君舊に倍しますく愛讀あらん事を

社務一切の監督は夙に文名を以て江湖に知られたる淺野乾君（乾坤居士）に依賴し社説は居士の考査を經て掲載する事

○論説雜錄等は諸名士の寄贈を乞ひ時々之れを記載する事

○小説は毎號必らず三編を掲げ社員假名垣魯文、古川精一之を負擔し内一編は三遊亭圓朝子の續話筆記を掲ぐる事○雜報は探訪及び通信員を増加し政事商業は勿論社會の出來事を敏捷精確に蒐め勉めて平易に記載すること○畫圖は社員落合芳幾をして考證せしめ彫刻師を撰び毎號艶麗若しくは活潑なるものを三個づゝ挿む事○臨時出來事に付珍奇ある件は其報道と共に插畫を加へて掲載する事○附錄は毎月一回若しくは二回本紙同様のものを添ふる事

本紙定價は一枚金壹錢一ヶ月分前金二十五錢三ヶ月分同七十錢と改定せし事○廣告料は五號活字一行二十字詰一日分金五錢と定めし事但し特別廣告欄を設け之に掲載を要する分は其倍額を申し受くる事

以上の如く改正し紙面擴張の行數は一ページを六段に區分し從來の分に比して字數二千二百字此行數百十行を增加す但し改良第一發行の當日即ち十二月一日は本紙同様の大附錄二枚を添附す内一枚は畫工落合芳幾が丹精を凝らしたる「時世粧百人女臈」といへ美麗なる畫圖今一枚は「松重銀杏廼綾織」と題せる讀切の小説を掲載したるものなり

明治二十年十一月廿八日

東京京橋區尾張町二丁目二十番地

繪入新聞兩文社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

明治二十年十二月一日發行

速記叢書講談演説集 第七册

〔定價金十二錢郵税四錢（郵便切手代用隨意）〕

内務省参事官明治法律學校講師スタチスチック社員兼感化慈善會幹事 宇川盛三郎先生の講演にかゝる

監獄論を識す

通篇凡二十章二万三千餘言 監獄全躰に關する事項論じて漏すとなし

●目次◯緒論◯監獄の行政上の位置◯監獄の目的及方法◯監獄と警察と裁判との關係◯監獄と教育との關係◯矯正院即感化院◯放免囚◯監獄は決して厭むべきものに非ず◯犯罪人と貧民との關係◯貧民救助の目的◯貧民救助の方法◯歐米の監獄の事◯歐米監獄の方法◯歐米諸國にて實行する監獄事業◯歐洲監獄の種類◯佛國の監獄に關する實例◯日本監獄の種類◯日本の監獄に關する實例◯監獄の改良◯約説

發賣書肆
東京日本橋區通三丁目十四番地 丸善商社書店
東京日本橋區本町三丁目二十番地 瑞穂屋卯三郎
東京日本橋區馬喰町二丁目一番地 石川教育書房
東京神田區淡路町一丁目一番地 嚴々堂

生徒募集廣告

本校教員増員致し候に付き寄宿生十名通學生三十名を募集す

明治二十年十一月

京橋區山城町四番地

婦人洋服裁縫女學校

校長 平島喜平
幹事 喜多見倫子
仝 貫名綾子

發兌				
九月	四日	九日	十五日	廿六日
十月	九日	十二日	十三日	廿八日
十一月	五日	十二日	十九日	廿六日
十二月	三日	十日	十七日	廿四日 三十一日

定價			
一册。五錢	郵税。一錢	（但府内無郵税）	
十册。四十八錢	郵税。十錢	（同前）	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を要する者には右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行	一回（廿七字詰）	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる書物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍類は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8n HIYOSHICHÔ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町嚴々堂◯東京芝西久保櫻川町萬春堂◯東京神田區雉子町開々社支店◯同神田區佐柄不町東海堂◯同日本橋區新銭町良明堂◯同京橋區木挽町二丁目萬字堂◯同本郷區元富士町盛春堂◯同本郷區春木町二丁目解明堂◯東京本郷四丁目文壽堂◯横濱伴吉町角田屋貞◯京都四條通小橋へ入澤集光堂◯同三條通東洞院西へ入クリスチアンポードー◯大坂備後町四丁目岡島支店◯仙臺國分町十五番地伊勢安雑誌部◯宮城縣仙臺大町木村文助◯尾張國名古屋本町石版舍◯出雲國松江新町盛進堂◯廣島縣大手町一丁目早速社◯長崎酒屋町虎與號◯江州彦根西内大工町新々堂◯相州小田原緑町◯石壽堂◯上州高崎田町煥平堂◯土佐國高知本町三丁目樂園堂◯熊本文明堂

發行所 東京京橋區日吉町八番地 本局 女學雜誌社
持主兼編輯 嚴本善治
印刷 森田豐